

【報道関係各位】

株式会社ベネッセコーポレーション

代表取締役社長 明田英治

高大接続に関する調査【結果速報】**「共通学力試験＋多面的な評価で選抜」は高大ともに6割が賛成
「達成度テスト導入」は大学側より高校側で懸念が多数****大学入試改革が高校生の学習を積極的にするかは、大学6割、高校5割が否定的**

株式会社ベネッセコーポレーション(本社:岡山市、以下ベネッセ)の社内シンクタンク「ベネッセ教育総合研究所」では、2013年11月下旬～12月末にかけて、全国の高等学校長および大学の学科長を対象に、高大接続の諸問題(入学者選抜、入学前教育、初年次教育等)について調査を実施しました(主査:川嶋天津夫大阪大学教授)。今回は速報として、現在、国で審議されている大学入試改革の方向性に関する高校側・大学側の賛否について報告するものです。主な調査結果は以下の通りです。

1. 共通入試を基礎に大学が多面的な評価を加える入学者選抜には、高校・大学ともに6割程度が賛成。賛否双方に試験の公平性に対する問題意識がみられる。

「共通入試を基礎とした上で各大学が多面的な評価を加えて実施する入学者選抜」については、高校の63.0%、大学の60.7%が「賛成(賛成+どちらかといえば賛成の合計)」と回答。自由記述では多面的な評価を歓迎する声がある一方で、選抜における公平性を疑問視する回答も目立つ。

2. 「現在のセンター試験の廃止」、「2種類の達成度テスト導入」には、高校で反対する割合が高い。高大ともに新しいテスト導入の意義を問う声があがっている。

「現在のセンター試験の廃止」については、高校で反対する割合(どちらかといえば反対+反対の合計)が高い(高校;賛成19.6%、反対41.6% 大学;賛成26.8%、反対28.8%)。特に、「国公立大学や難関私立大学への進学者が多い」高校では、反対が半数を超えた(51.7%)。また、「基礎レベル・発展レベルの2種類の達成度テスト導入」については、高校で賛成27.2%、反対41.4%、大学で賛成37.4%、反対24.9%と、高校では反対の比率が高く、大学では賛成の比率が高い。自由記述では、「センター試験と何が違うのか」「なぜセンター試験を廃止する必要があるのか」等の声が多い。

3. 「達成度テストの複数回受験」は、高校で反対が賛成を上回る。高校の教育活動への影響を懸念。一方で、達成度テスト(基礎レベル)の推薦・AO入試での活用には高校・大学ともに賛成が多い。

「達成度テストの複数回受験」については高校で賛成31.8%、反対40.6%、大学で賛成43.6%、反対23.2%と、高大での認識が分かれた。高校では、特に、「国公立大学や難関私立大学への進学者が多い」高校の反対率が高い(57.5%)。一方、大学では私立の賛成率が高い(46.4%)。高校の自由記述では、行事や部活動への影響を懸念する声や、学習がテスト・受験対策中心に偏ることを危惧する声が多かった。一方で「達成度テスト(基礎レベル)の推薦・AO入試への活用」は高校の46.9%、大学の48.3%が賛成と回答。特に私立大学の自由記述では、基礎学力把握への活用に賛成する声が多い。

4. 「達成度テスト(発展レベル)の結果の段階別表示」についての賛否は均衡。

「達成度テスト(発展レベル)の結果の段階別表示」については、高校・大学ともに賛否が均衡した(高校;賛成32.2%、反対31.3% 大学;賛成30.5%、反対27.4%)。自由記述では、「順位や合否が決めづらい」等の声が多くあがっている。

5. 入試制度改革による高校生の学習積極化への期待は高校・大学ともに高くはない。**高校では、高大接続改革で解決しようとしている「高校側の課題」が何であるか不明確と感じている。**

「大学入試を改革すれば高校生はもっと積極的に学習に取り組むだろう」との問いに対して、高校では「そう思う(とてもそう思う+まあそう思うの合計)」が48.4%、「そう思わない(あまりそう思わない+まったくそう思わないの合計)」が51.1%とほぼ均衡。一方、大学では「そう思う」が34.9%、「そう思わない」が64.0%であった。また、高校側の79.6%、大学側の72.2%が「大学での進級や卒業の認定基準をもっと厳しくしたほうがよい」と回答している。さらに高校では71.7%が、政策上の高大接続の議論において「高校にとって何が重要な課題なのか」が分かりづらい」と回答している。

今回の調査結果から見えてきたのは次の二点です。

大学入試制度改革だけでは、高校生の学びは改善されない

一点目は、「大学入試制度改革だけでは高校生の学びは改善されない」との認識が広く存在しているという点です。その状況は、大学で6割以上、高校でも5割以上が「大学入試を改革すれば高校生はもっと積極的に学習に取り組むだろう」という考えに否定的に回答している事実を端的に示されています。また、達成度テストの導入に対する高校側の懸念は、(課外活動なども含め)高校生の豊かな学びを保証する施策としての妥当性を問うていると解釈することも可能でしょう。

こうした点を踏まえると、大学入試制度改革は、あくまでも高校教育の改革、大学教育の改革と合わせて総合的に検討されるべきであると考えます。

高等学校長や大学学科長に、個別施策の意義や必要性が伝わっていない

二点目は、大学入試制度改革の必要性についての認識は広がりつつあるものの、個別の施策については、責任ある立場の高等学校長や大学学科長に対しても、必ずしもその意義や必要性が伝わっているとはいえない、ということです。とりわけ達成度テストについては、その具体像がまだ示されていないことが、高大関係者の今回の回答につながっていると思われます。また、いずれの施策に対しても、高校・大学ともに2割から4割が「どちらともいえない」と回答している点もこのことを示しています。

それだけに今後、なぜ入試制度改革が今必要なのか、入試制度改革で解決をめざす課題は何なのか、そのための施策の意義を高校・大学の双方に分かりやすく説明し、広く理解を促す必要があると考えます。

大学入試制度改革の議論はこれからも続きます。新しい大学入試制度を実りあるものにするためにも、今後、高校・大学それぞれ教育現場からの声を大切に、「高校・大学時代の7年間を通して、若者にどのように豊かな学びの場、成長の機会を提供するのか」という教育の原点に立ち戻った、総合的な視点に立つ改革が望まれます。

●調査概要

名称	高大接続に関する調査
調査テーマ	高大接続の実態・課題をとらえる
調査方法	郵送法による質問紙調査
調査時期	2013年11月～12月
調査対象	高校 校長 1,228名(配布数2,500通、回収率49.1%) *全国の全日制高等学校のリストより、無作為に学校を抽出。 大学 学科長 2,015名(配布数5,060通、回収率39.8%) *全国の学部・学科リストを利用し、その全てに配布。 ただし大学院大学、放送大学、通信制のみの大学、社会人が主な対象である学部・学科等を除いている。
調査項目	【高校・大学共通項目】大学入学者に求める力・高校で育成している力／高大接続の意識／今後の高大接続像／現在の改革に対する賛否 など 【高校】進学者の実態・課題／進路指導の課題／大学入学者選抜に対する考え方／新課程下の指導実態 など 【大学】1年生の実態・課題／入学者選抜の実態・課題／高大連携／入学前教育／リメディアル教育／初年次教育 など

ベネッセ教育総合研究所のホームページからも、本リリース資料をダウンロードできます。

また、今後さらに分析を進め、2014年5月ごろに調査結果をまとめたレポートを掲載する予定です。

<http://berd.benesse.jp/>

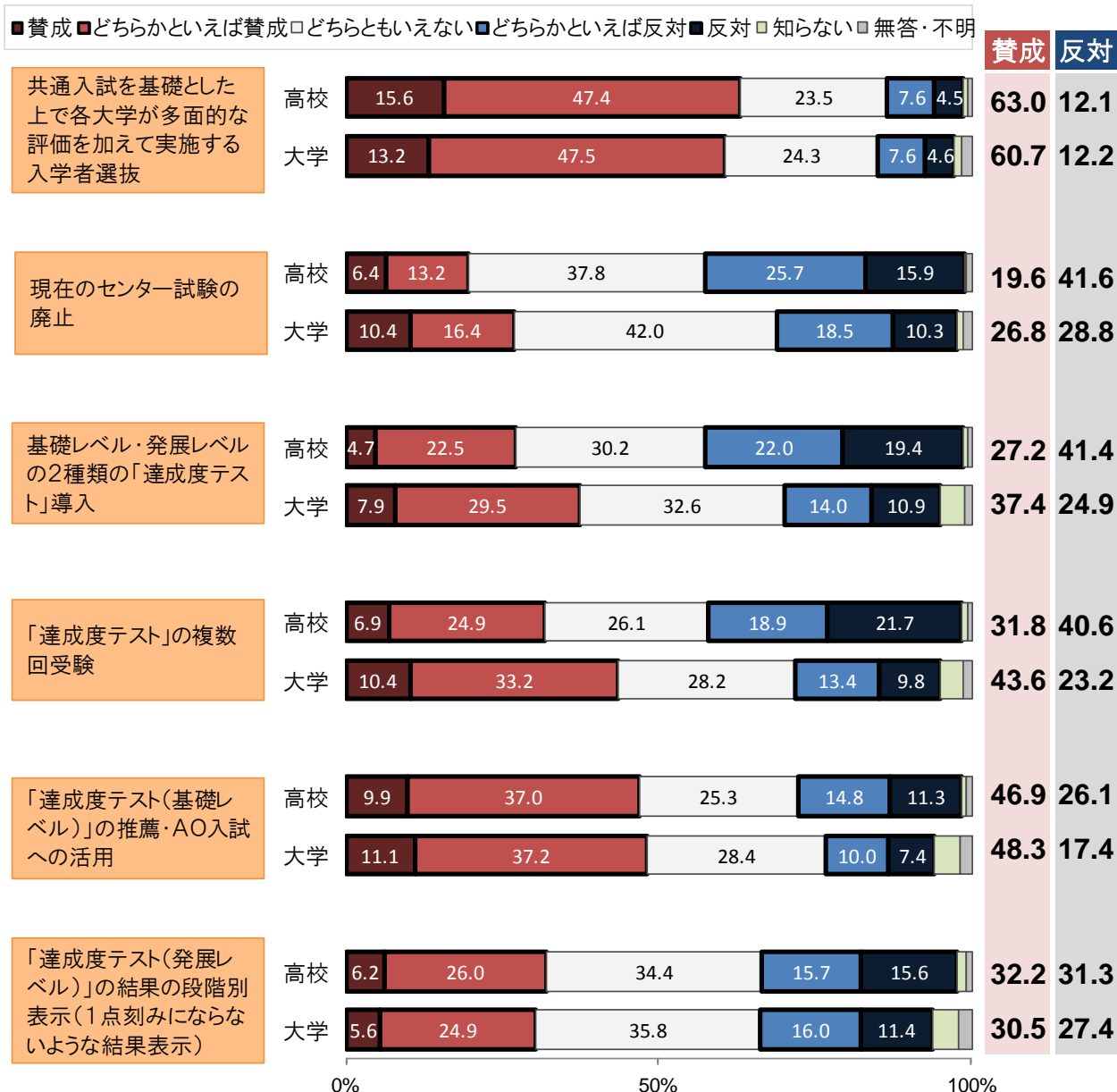
●主な調査結果

1) 大学入試制度改革に対する賛否

- ・「共通入試を基礎とした上で各大学が多面的な評価を加えて実施する入学者選抜」は、高校・大学ともに6割程度が賛成。「達成度テストの推薦・AO入試への活用」も5割弱が賛成。
- ・「現在のセンター試験の廃止」「2種類の達成度テスト導入」「達成度テストの複数回受験」は、高校で約4割が反対。
- ・「達成度テストの結果の段階別表示」は、高校・大学ともに賛否が均衡している。

Q: あなたは、現在の改革で検討されている次のような取り組みについて、賛成ですか反対ですか。

図表1 大学入試制度改革に対する賛否(全体) 高校調査 大学調査



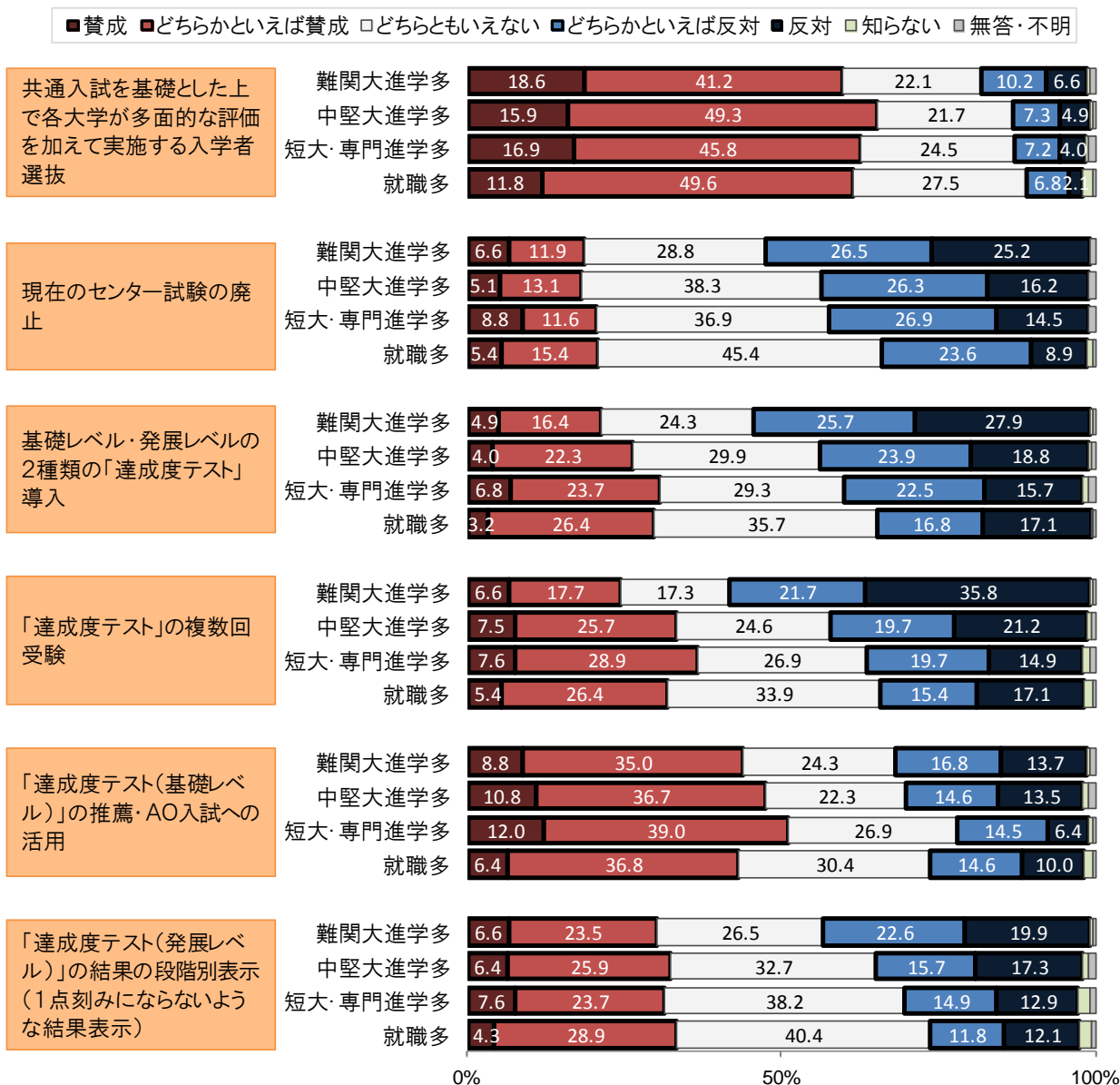
注) サンプル数は高校 1,228 名、大学 2,015 名。

* 右表の「賛成」は、「賛成」+「どちらかといえば賛成」の値、「反対」は、「反対」+「どちらかといえば反対」の値を示す。

2) 高校側からみた大学入試制度改革に対する賛否

- ・国公立大学や難関私立大学への進学者が多い高校では、「現在のセンター試験の廃止」「2種類の達成度テスト導入」「達成度テストの複数回受験」への反対が多い。
- ・「達成度テストの推薦・AO入試への活用」はいずれの高校でも賛成が反対を上回る。とくに短大や専修・専門学校への進学者が多い高校では、賛成が半数をこえている。

図表2 大学入試制度改革に対する賛否(卒業後の進路別) 高校調査



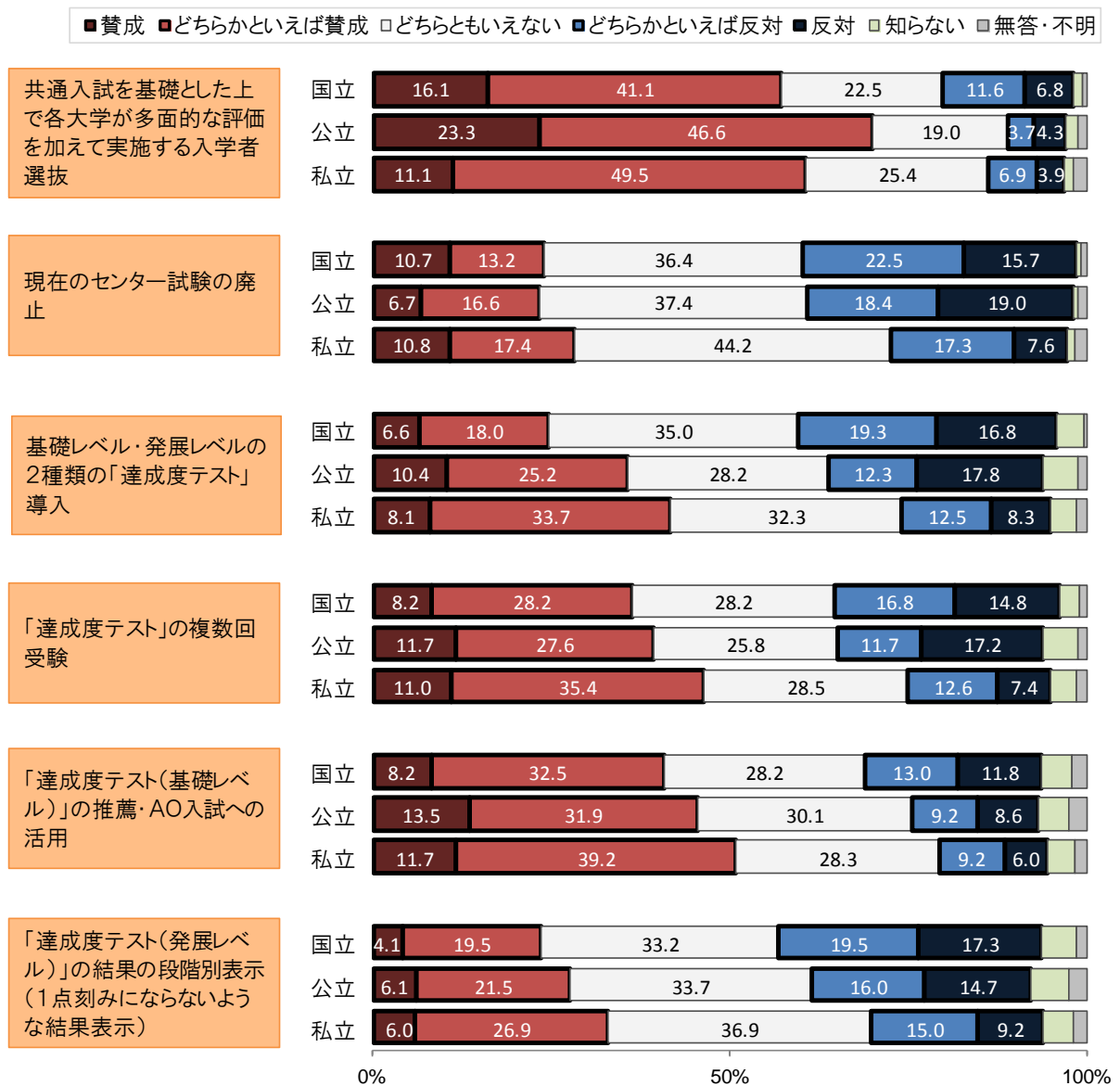
注) 「貴校では、卒業後どのような進路を選ぶ人が多いですか」の質問への回答をもとに分類している。

「国公立大学や難関私立大学への進学者が多い」を選んだケースを「難関大進学多」(226名)、「中堅レベルの大学への進学者が多い」を「中堅大進学多」(452名)、「短大や専修・専門学校への進学者が多い」を「短大・専門進学多」(249名)、「就職や就職希望者が多い」を「就職多」(280名)と表記している。

3) 大学側からみた入試制度改革に対する賛否

- ・「共通入試を基礎とした上で各大学が多面的な評価を加えて実施する入学者選抜」は、いずれの大学でも6割前後が賛成。
- ・その他の項目では、賛成の比率は私立大学で高く、反対の比率は国立大学で高い傾向がみられる。

図表3 大学入試制度改革に対する賛否(設置者別) 大学調査



注) サンプル数は国立 440 名、公立 163 名、私立 1,411 名。

4) 大学入試制度改革に関する自由意見

大学入試制度改革についての賛否の理由、達成度テストを導入した際に考えられる課題等についての自由記述回答のなかから、代表的な意見を以下にとりあげている。

1. 「共通入試を基礎とした上で各大学が多面的な評価を加えて実施する入学者選抜」について

賛成	探究する力や創造性を高めるなどのため、現在進行中の入試改革には賛成です。高校教員がそのためにふさわしい知識・スキルを学ぶための研修についても検討が必要であると考えています。(高校)
	現在のセンター試験は一発勝負的なところがあり、受験生に負担が大きすぎる。学習成果や論理的思考能力、判断力、意欲、性格など、多面的に通年で評価できる試験制度に移行した方がよい。(大学)
反対	多様な基準というが、本当に公正な選抜ができるのか疑問である。現行の学力による選抜が最も客観的かつ公平・公正な選抜であり、格差を越えた有為な人材の発掘と社会の活力につながっていると考える。(高校)
	公平な選抜ができないのではないかとと思うので反対。(大学)

2. 「現在のセンター試験の廃止」「2種類の達成度テスト導入」について

賛成	年に1回だけのセンター試験を廃止し、複数回受験できる「達成度テスト」への導入に賛成です。ただし、高校側の負担がどの程度増加するのかがわかりづらく、心配しております。(高校)
	現在のセンター試験で、学生の知識と応用能力を評価できているのか疑問であり、高校教育の評価を達成度で大きくとらえ、進路に応じた大学側の評価を加えた自由度のある入試方式の方が、大学での学生の能力を引き出せるのではないかと考える。(大学)
反対	センター試験とどう違うのかよくわからない。センター試験の何が問題なのかもっと整理してから方向性を出してもらいたい。(高校)
	現在のセンター試験で入学者の選抜がうまくいっていると思われるので、この制度を特に変える必要性を感じない。(大学)

3. 「達成度テストの複数回受験」「達成度テストの推薦・AO入試への活用」について

賛成	生徒の学力の定着、向上に役立つと思う。(高校)
	複数回の達成度レベルを見る試験によって、高校生は一発勝負の入試から解放され、落ち着いて基礎学力を習得できる。(大学)
	AO入試や推薦は基礎的理解力があれば、人材に多様性を加味した選抜ができるので、基礎レベル試験には賛成である。(大学)
反対	学校行事の大幅な組み換えや部活動への参加減少が生じる。(高校)
	高校生活が受験一色になってしまう。(高校)
	定められた入試当日に力を発揮できることも能力の1つと考えられる。(大学)

4. 「達成度テストの結果の段階別表示」について

賛成	1点刻みでない段階別表示は、現行センター試験の改善としては評価できる改革である。(高校)
	1点刻みの可否で受験生の人生が左右されるのはいかがなものか。(大学)
反対	結果の段階別表示は段階の境界で1点差のレベル分けが行われることになり、点数主義の解消にはならないのではないかと考える。(高校)
	ボーダーラインの学生を選抜する基準に使えなくなる。(大学)
	入試では順位を決めなければ「定員」を満たせない。段階別ではどうやって順位を決めろというのか。(大学)

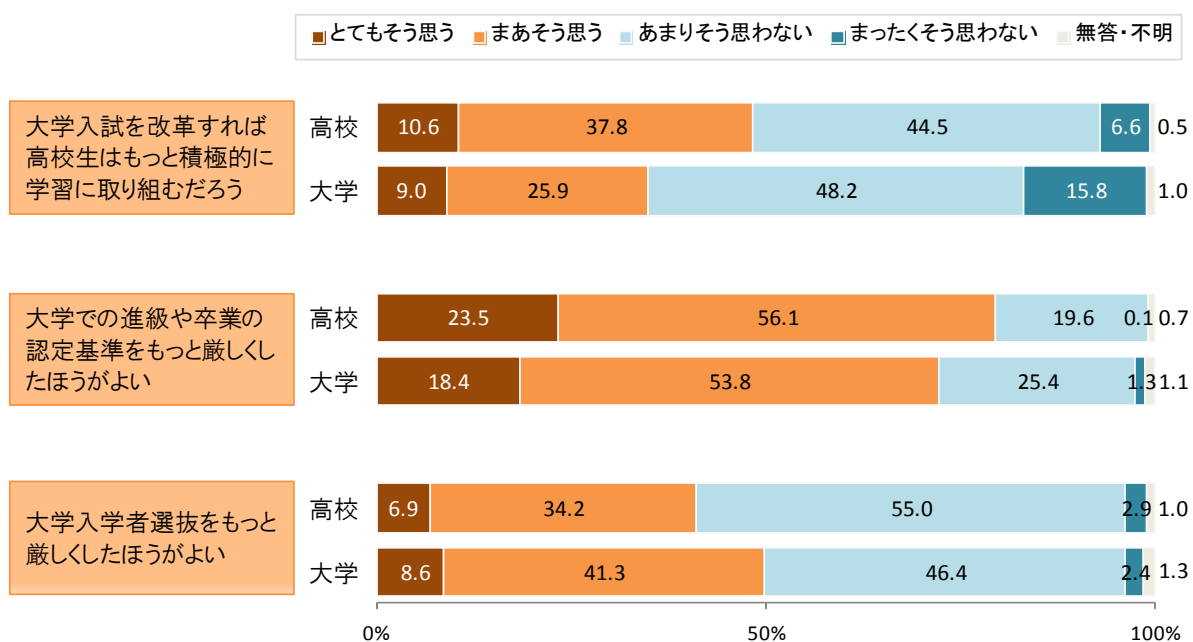
5) 大学入試制度改革と高大接続改革の課題

- ・「大学入試を改革すれば高校生はもっと積極的に学習に取り組むだろう」に「そう思う」と回答したのは、高校で5割弱、大学で3割強。
- ・「大学入学者選抜をもっと厳しくしたほうがよい」は高校・大学ともに5割以下であるのに対して、「大学での進級や卒業の認定基準をもっと厳しくしたほうがよい」は7割以上に達する。
- ・政策上の議論において「高校にとって何が重要なのが分かりづらい」とした回答は、高校の7割以上に達する。

Q: あなたは、今後の大学の入学者選抜に関する次のようなことについてどのようにお考えですか。

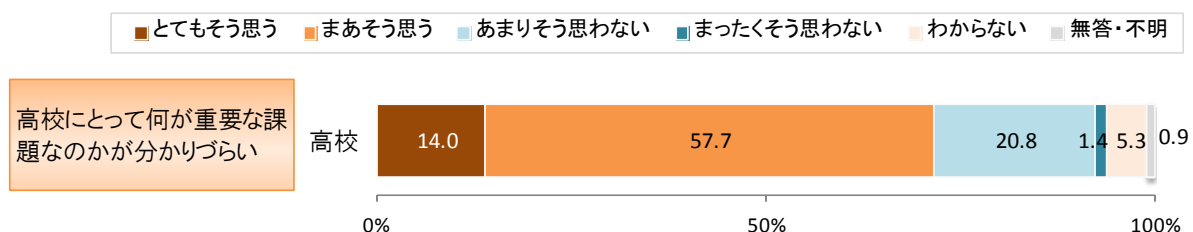
Q: 高校と大学の接続に関する今後のあり方に関して、あなたはどのように思いますか。

図表4 今後の大学入学者選抜・高校や大学のあり方について(全体) 高校調査 大学調査



Q: 政策上の高大接続の議論についてお聞きます。

図表5 政策上の高大接続の議論について(全体) 高校調査



注) サンプル数は高校 1,228 名、大学 2,015 名。

●参考資料 「達成度テスト」に関する提言内容

(参考)

「達成度テスト（仮称）」に関する提言内容

名称 (仮称)	達成度テスト	
	基礎レベル	発展レベル
目的	高等学校教育の質の確保・向上、大学の人材育成機能の強化、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する大学入学者選抜への転換を図る改革を行う。その一環として、高等学校段階における学習の達成度を把握し、高等学校の指導改善や大学入学者選抜に活用する新たなテストとして導入	
機能・ 大学入 学者選 抜での 活用	高等学校の基礎的・共通的な学習の達成度を客観的に把握し、学校における指導改善にいかす 推薦・AO入試における基礎学力の判定に際しての活用を促進	大学が求める学力水準の達成度の判定に積極的に活用 各大学で基礎資格としての利用を促進 利用する教科・科目や重点の置き方を柔軟にするなど弾力的な活用を促す
受験回 数	高等学校在学中に複数回受験できる仕組みとすることを検討	試験として課す教科・科目を勘案し、複数回挑戦を可能にすることを検討
試験内 容等	基礎的・共通的な教科・科目 知識・技能の活用力、思考力・判断力・表現力も含めた幅広い学力を把握し、指導改善につなげる 高等学校の単位及び卒業の認定や大学入学資格のための条件とはしないが、できるだけ多くの生徒が受験	大学教育に必要な能力の判定という観点から教科・科目や出題内容を検討 知識偏重の1点刻みの選抜にならないよう、試験結果はレベルに応じて段階別に表示
試験運 営	大学入試センター等が有するノウハウ、利点をいかしつつ、相互に連携して一体的に行う	

※具体的な実施方法や実施体制、実施時期、名称、制度面・財政面の整備等について、高等学校での教育活動に配慮しつつ、関係者の意見も踏まえ、中央教育審議会等において専門的・実務的に検討。